

全国健康保険協会 全国大会開催報告

全国健康保険協会

全国大会

私たちが国に
お願いしたいこと

協会けんぽへの
国庫補助率の引上げ

現行
16.4% → **20%**

高齢者医療制度の見直し

- 高齢者医療の公費負担拡充
- 高齢者医療を支える現役世代の負担を、人数割りから支払い能力に応じた負担に変更

全国**3,600**万人の加入者のため、

国庫補助率の**引上げ**を！
高齢者医療制度の**見直し**を！

日時

平成26年 **11月18日** 火 12:00開会

会場

ニッショーホール（日本消防会館）
東京都港区虎ノ門2丁目9番16号

ホームページでさらに詳しくお伝えしています。ぜひご覧ください。

協会けんぽ 検索

大会次第

1. 開会・議長選出

2. 議長挨拶 東京支部評議会 議長 原山陽一

3. 基調報告 全国健康保険協会 理事長 小林剛

4. 来賓挨拶 厚生労働大臣 政党代表 自由民主党 公明党 民主党 関係団体 日本労働組合総連合会 日本商工会議所 全国中小企業団体中央会 全国商工会連合会 健康保険組合連合会 全国社会保険委員会連合会

5. 意見交換

テーマ：これ以上の負担は限界！

協会けんぽの加入者・事業主の声を国に届けよう！

山口県立大学社会福祉学部 教授	田中耕太郎
有限会社ユリヤ 代表取締役	中村修史
広島テント工業株式会社 代表取締役	井田達成
鳳自動車株式会社 健康保険委員	吉澤幸子

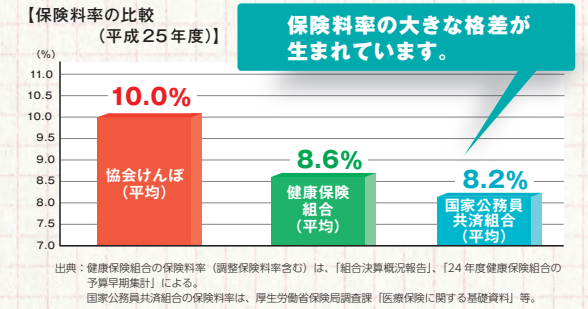
6. 決議

7. 閉会の辞 東京支部評議会 議長 原山陽一

現実1

同じ医療サービスを受けるのに、他の健康保険よりも保険料負担が重い。大きな格差が生まれています。

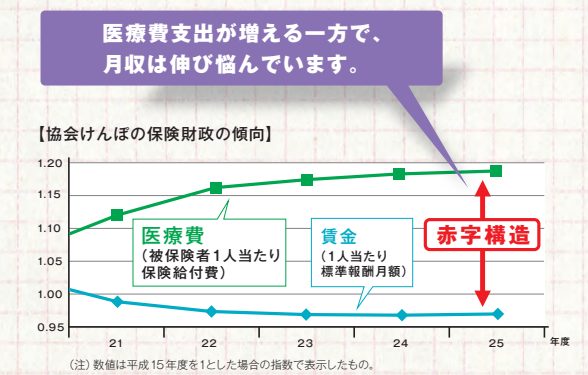
協会けんぽの現在の保険料率は全国平均で10.0%、「健康保険組合」や「国家公務員共済組合」よりも重い負担です。協会けんぽは医療費を抑える「ジェネリック医薬品の使用促進」などの対策を進めてきましたが限界があり、加入者の医療を支え続けるため、やむなく保険料率を引き上げてきた現実があります。



現実2

加入者の負担はもはや限界。さらなる国の補助が必要です。

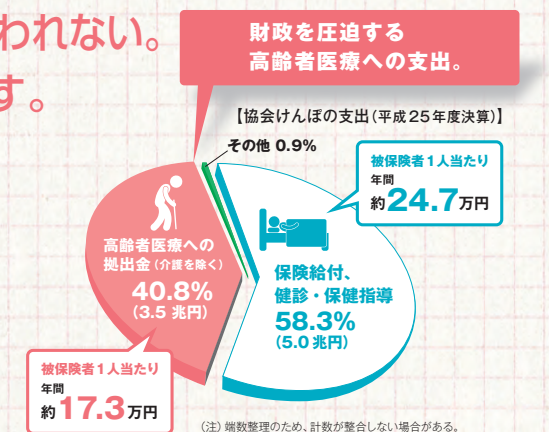
保険料率10.0%は、多くの中小企業にとって負担の限界です。加入者からも、「企業の業績が低迷する中での負担増は、雇止めにつながる」、「将来が見通せず、不安だ」など深刻な声が上がっています。協会けんぽは構造的に財政が脆弱なため、国庫による補助が制度化されており、現在の補助は保険給付費等の16.4%です。しかし、さらなる増額が必要というのが現実です。



現実3

支出の4割は加入者のために使われない。制度の見直しが求められます。

協会けんぽの支出の4割（約3.5兆円）が高齢者医療にあてられており、財政を悪化させています。もちろん高齢者医療を支えることは大切ですが、他に方法はないのか。こうした現実「国民皆保険制度」全体の問題でもあります。さらなる社会の高齢化が進む中、制度の見直しが必要な時です。



現実4

このままでは近い将来、深刻な累積赤字になる可能性も。

協会けんぽの加入者の賃金が現状のまま、国の支援が現在の水準であり続ければ、平成28年度には収支が1,900億円の赤字に。平成30年度には、赤字が5,300億円にまで拡大、積立金も使い果たし、1,700億円の累積赤字となる可能性があります。協会けんぽでは、これまで繰り返し補助の増額を国にお願いしてきましたが、残念ながらいまだ実現していません。

決 議

全国健康保険協会（協会けんぽ）は、加入者数 3,600 万人、国民の 3.6 人に 1 人が加入する日本最大の医療保険者であり、被用者保険のセーフティネットとして日本の国民皆保険制度を支えている。

一方で、その加入者の大半は、収入の低い中小・小規模企業の事業主やそこで働く従業員、その家族であり、財政基盤は脆弱である。

加えて、協会けんぽの財政構造は医療費等の支出の伸び率が賃金の伸び率を上回る赤字構造となっており、構造的な赤字財政は依然として解決していない。

また、現在の平均保険料率は 10% と他の被用者保険に比べても高く、これ以上の保険料率の引上げは、中小・小規模企業の経営、加入者の生活に大きな負担となるものであり、限界である。同じ被用者保険であるにもかかわらず、収入の低い者が重い保険料を負担しなければならないという状況も、社会保障の在り方として是正が必要である。

さらに、医療保険制度の安定のために、協会けんぽは支出の 4 割、約 3.5 兆円を高齢者医療の負担に充てているが、この負担も限界にある。

協会が抱える構造的な赤字財政問題が解決されない限り、現在の制度枠組みのままでは、協会けんぽの収支はいずれ赤字に至ることが避けられない。

協会けんぽの財政問題は、一保険者の問題にとどまらず、我が国の中小・小規模企業の経営や、そこで働く従業員の雇用や生活に直結する問題である。

今こそ国は、国民皆保険の維持のため、将来を見据えた医療保険のあるべき姿を示し、安心と納得ができる医療保険制度を構築すべきである。我々、協会けんぽ加入者は、下記の事項の実現を期し、3,600 万人の加入者の総意をもって、ここに決議する。

記

一、協会けんぽに対する国庫補助金の補助率を健康保険法本則上限の 20% に引き上げること

一、公費負担の拡充をはじめとする高齢者医療制度の見直しを実施するとともに、後期高齢者支援金の被用者保険者負担について全面総報酬割を導入し、それに伴い生じる公費財源を協会けんぽの財政基盤の強化など被用者保険の負担軽減に充てること

平成 26 年 11 月 18 日 全国健康保険協会 全国大会

大会の様



(左) 協会けんぽの現状と課題について訴える
協会けんぽ小林理事長

(右) 来賓挨拶をする
自由民主党 衆議院議員 高鳥修一氏
(党 厚生労働部会長
衆議院 厚生労働委員会 理事)



大会決議の様 (左) (右)
全国47支部の代表者が登壇

集団行進



全国大会の参加者で、
厚生労働省まで集団行進を実施

(左) 横断幕を掲げ行進する小林理事長ら参加者
(右) 福島支部からの参加者

福島支部による国会議員への要請活動

日 時：平成26年11月18日（火）全国大会終了後

要請メンバー：全国大会参加者のうち10名（福島支部評議員・健康保険委員代表・支部職員）

対 象：地元選出など、福島県に縁のある国会議員16名

人 数：直接要請 7名・議員本人が不在のため秘書と面会 9名

内 容：参議員会館、衆議院開館を訪問。「国庫金引き上げ」「高齢者医療制度の見直し」などについて、財政問題に関する資料や福島県大会の報告書を用いて要請した。

要請結果：直接面談した国会議員から、「要望の実現に向けて努力する」「医療保険制度は党派を超えて取り組むべき課題」など、前向きな回答があった。

要請の様様

（順不同・敬称略）



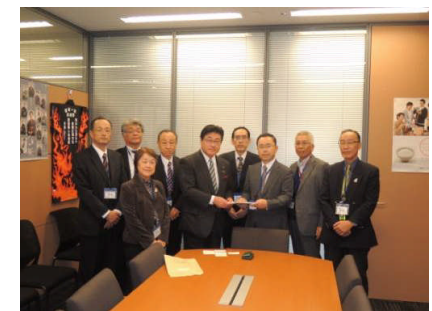
自民党参議院議員 岩城 光英氏



自民党衆議院議員 吉野 正芳氏



自民党衆議院議員 坂本 剛二氏



自民党衆議院議員 菅家 一郎氏



民主党参議院議員 増子 輝彦氏



みんなの党参議院議員 山口 和之氏



新党改革参議院議員 荒井 広幸氏

【参考】協会けんぽ全体の取組み

メディアへの働きかけ（新聞広報）

27年通常国会に向けた医療保険制度全体の見直しに関する議論の取りまとめの前に、改めて、協会けんぽの財政状況や次期医療保険制度改正に対する協会けんぽの考えなどを、加入者・事業主の皆さまをはじめ政府や国民全体へ問題提起するため新聞広報を実施。

平成26年10月25日の朝刊で、中央紙2紙及び地方紙48紙に協会けんぽの財政基盤に関する記事を掲載。

中央紙 読売新聞・毎日新聞
地方紙（福島） 福島民報・福島民友

厚生労働大臣への要望書提出（全国大会当日）



全国大会集団行進後に、厚生労働省にて
原厚生労働審議官へ要請書を手交する
協会けんぽ小林理事長

緊急レポート

健康保険の
明日に
危機

中小企業で働く皆さまへ

いま、皆さまのための健康保険「協会けんぽ」が
直面している厳しい現実をご報告します。

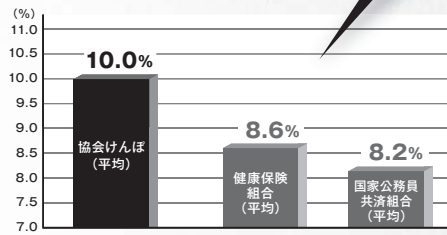
同じ医療サービスを受けるのに、
他の健康保険よりも保険料負担が重い。
大きな格差が生まれています。

現実1

「協会けんぽ」は中小企業で働く方やそのご家族が対象の健康保険です。国民の約3.6人に1人が加入しており、サラリーマンの医療保険の「最後の受け皿」として国民皆保険制度を支えています。現在の保険料率は全国平均で10.0%、「健康保険組合」や「国家公務員共済組合」よりも重い負担です。当協会は医療費を抑える「ジェネリック医薬品の使用促進」などの対策を進めてきましたが限界があり、加入者の医療を支え続けるため、やむなく保険料率を引き上げてきた現実があります。

保険料率の大きな格差が生まれています。

【保険料率の比較(平成25年度)】



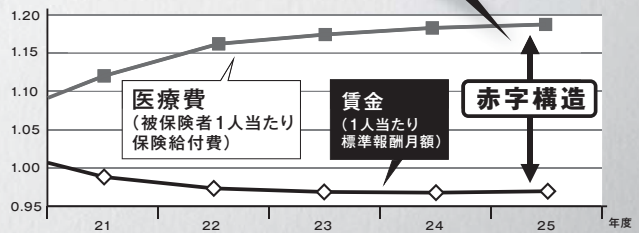
出典：健康保険組合の保険料率(調整保険料率含む)は、「組合決算概況報告」(24年度健康保険組合の予算早期集計)による。国家公務員共済組合の保険料率は、厚生労働省保険局調査課「医療保険に関する基礎資料」等。

現実2

加入者の負担はもはや限界。
さらなる国の補助が必要です。
保険料率10.0%は、多くの中小企業にとって負担の限界です。これ以上に負担が増せば、経営破綻などを引き起こす懸念があります。加入者からも、「企業の利益率が下がる中で、負担増は、雇止めにつながる」、「将来が見通せず、不安だ」など深刻な声が上がっています。平均給与が低い中小企業が中心の当協会は、構造的に財政が脆弱なため、国庫による補助が制度化されており、現在の補助は保険給付費の16.4%です。しかし、さらなる増額が必要というのが現実です。

医療費支出が増える一方で、
月収は伸び悩んでいます。

【協会けんぽの保険財政の傾向】



(注) 数値は平成15年度を1とした場合の指数で表示したものです。

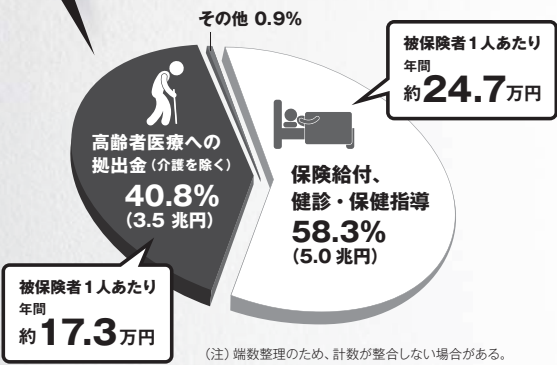
支出の4割は加入者のために使われない。
制度の見直しが求められます。

現実3

健康保険は、高齢者の医療費も支え合って負担する仕組みです。当協会では、支出の4割(約3.5兆円)が高齢者医療にあてられており、協会けんぽの財政を悪化させています。もちろん高齢者医療を支えることは大切ですが、他に方法はないのか。こうした現実「国民皆保険制度」全体の問題でもあります。さらなる社会の高齢化が進む中、制度の見直しが必要な時です。

財政を圧迫する
高齢者医療への支出。

【協会けんぽの支出(平成25年度決算)】



(注) 端数整理のため、計数が整合しない場合がある。

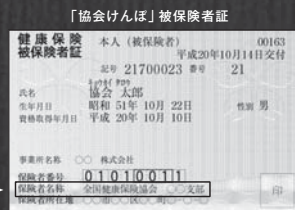
現実4

このままでは近い将来、
深刻な累積赤字になる可能性も。
「協会けんぽ」加入者の賃金が現状のまま、国の支援が現在の水準であり続けられれば、平成28年度には収支が1900億円の赤字に。平成30年度には、赤字が5300億円にまで拡大、積立金も使い果たし、1700億円の累積赤字となる可能性があります。当協会では、これまで繰り返し補助の増額を国にお願いしてきましたが、残念ながらいまだ実現していません。

加入者数は
約3600万人。

あなたも協会けんぽの加入者では
ありませんか？お持ちの被保険者証を
ご確認ください。

「全国健康保険協会」の表記があれば、
あなたも加入者です。



安定した健康保険制度のために

私たちは、将来の安心を守るために、制度の見直しを国に求めています。
●国庫補助の法定上限(20%)までの増額 ●拠出金負担の重い高齢者医療制度の見直し

ホームページでさらに詳しくお伝えしています。ぜひご覧ください。

協会けんぽ

検索

一緒に考えませんか、これからの健康保険。



全国健康保険協会
協会けんぽ

<http://www.kyoukaikenpo.or.jp/>

【参考】全国大会前 福島支部の取組み

国会議員への要請活動

福島県選出国会議員 12事務所の訪問
平成26年10月8日～30日

要請メンバー：齋藤支部長及び齋藤企画総務部長

対象：福島県選出国会議員12名

内容：福島県内の議員事務所を訪問。協会の財政基盤強化に関する要望事項と財務省の案に対する協会の方針に対する理解を訴えた。

また、11月18日に開催する全国大会について説明するとともに、大会終了後は、要請のために加入者代表とともに訪問する旨を申し入れた。

要請の様様

【写真】亀岡 偉民議員に対する要請活動

平成26年10月11日（土）、齋藤支部長と齋藤企画総務部長が議員事務所を訪問し、亀岡議員と面談。

資料（協会けんぽ福島県大会開催報告、厚生労働大臣への要望書等）を用いて、27年度予算概算要求の際に協会けんぽの基盤を改善するための恒久的措置を講じるよう要請した。

